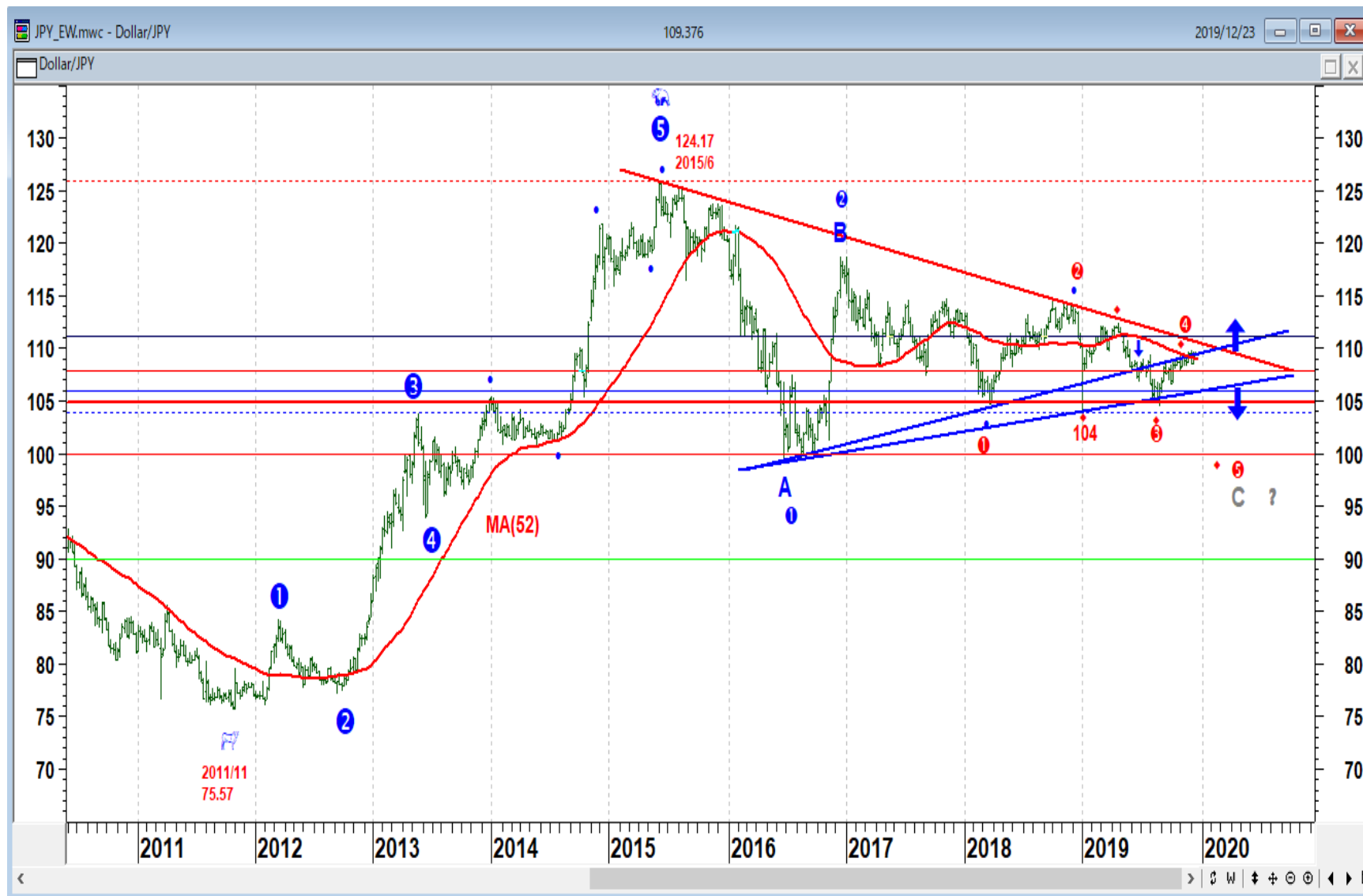


日経平均（週足）1984～2019年

相場は値幅か日柄で調整する



ドル/円（週足） 4年にわたる三角もちあい（日柄調整）



出所：筆者作成

ドル/円 (月足)

為替の歴史は政治の歴史



出所：筆者作成

『トルコリラ急落、半年ぶり安値 国営銀行が介入停止か』 12月21日 日経新聞

「下落のきっかけは15日、エルドアン大統領がトルコ南部のインジルリク米軍基地について「必要なら閉鎖する」と述べたことだ。米上院が1世紀前のオスマン帝国時代に起きたとされるアルメニア人虐殺事件について「ジェノサイド（虐殺）」と認定する決議案を可決したのに反発した。

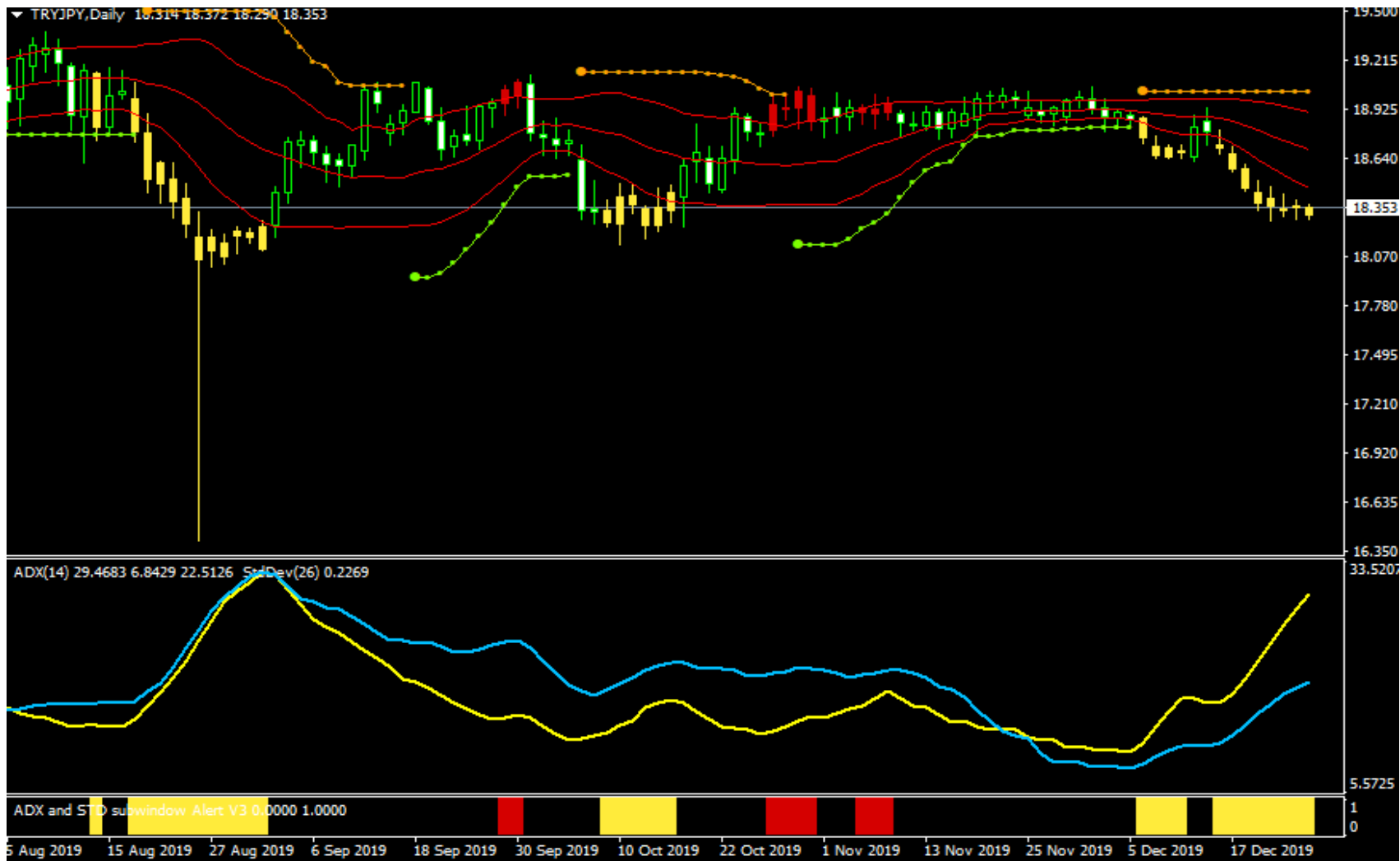
米トルコ関係の悪化は、2018年の通貨危機「トルコショック」の引き金にもなった。ただ、今夏以降は度重なる政治的ショックにもかかわらずリラは安定した値動きをみせていた。市場関係者の間では、3つの国営銀行がリラを買い支えてきたとの認識が一般的になっている。

ただ、国営銀の介入について著名エコノミストのアティラ・イエシラダ氏は「このところ動きがない」と指摘する。通貨安で伸びていた輸出は10月、前年同月をわずかに下回るなど陰りがみえてきた一方で、輸入は8%増と急増している。同氏は政府が輸出促進のためにある程度のリラ安を容認しているのではないかとみる。

トルコ中央銀行は12日、主要な政策金利の1週間物レポ金利を2%下げ、12%とした。実質金利は1~2%程度まで下がったとみられ、リラ安をもたらす素地もできていた。」

トルコリラ/円 (日足)

順張りの標準偏差ボラティリティトレードモデル



出所：楽天MT4・石原順インディケーター

トルコリラ/円 (週足)

順張りの標準偏差ボラティリティトレードモデル



出所：楽天MT4・石原順インディケーター

トルコリラ/円 (月足)

順張りの標準偏差ボラティリティトレードモデル



出所：楽天MT4・石原順インディケーター

50円からのトルコリラ/円の長期下げ相場の教訓は、いくら金利が入るにせよ、値ごろ感で相場のポジションを取ってはいけないということだ。損切をして、利を伸ばすことが相場の王道である。

【トレンドフォローはオプションの買いに似ている。ストップロスで損失は限定されていて、トレンドが続けば大きな利益が得られる。だからこのトレーディング手法は「損切をし」「利を伸ばす」ことだ。もちろん、何度もトレンドが進展しないで終わると、限られた損失も積み重なって大きな損失になる場合もある。私は言いたい。人間性に反するような難しいトレンドフォロー（高値を買ってさらに高値を売る・安値を売ってさらに安値で買い戻す）を行うことで、トレーディングの利益は得られるのだと。ここで規律が登場する。心理面での準備や何か月ものシステムの検証が必要になる。そして、トレーダーは人間の本性に反するトレードを実際に行う自信を身につける】（マイケルラリー・グラハムキャピタルマネジメント社長）

【私たちは必ずしも特定の時期にうまく乗れるわけではない。だが注意深く検討すれば、不確かな世界でも最も理にかなう投資哲学はトレンドフォローだ。トレンドフォローは高値で買ったり安値で空売りする。19年間、私たちは一貫して高値で買い、安値で空売りした。もしトレンドが市場の根本的な性質でなければ、私たちのような取引手法ではたちまち廃業に追い込まれていただろう。しかし、トレンドはこの世の不可欠で根本的な現実だ】（ジョン・W・ヘンリー）

現在、トルコリラ/円相場は日足と週足の両方で売りトレンドが発生している。流動性の落ちる年明けの相場には警戒が必要だろう。

電子書籍 ラリー・ウィリアムズのフォーキャスト2020

先取りマーケットレビューのリスナー3名様にパンローリングから

■「ラリー・ウィリアムズのアノマリーカレンダー」225やSP500などの傾向分析

■「ラリー・ウィリアムズの週刊マーケット分析（ラリーTV）」各市場のサイクル、シーズナルパターン、他市場をもとにしたフォーキャストライン、COTレポート分析、バリュエーションモデル分析など毎週ラリー氏自ら短期トレード戦略（対象：S&P500、米国債、金）を動画配信。カスタムチャート付き。

■「電子書籍 ラリー・ウィリアムズのフォーキャスト2020」ラリー・ウィリアムズ氏独自のサイクル分析やパターン分析、トレード戦略を解説。米株式市場におけるファンダメンタルズ分析、長期サイクル、短期サイクル、10年周期サイクル、大統領選サイクルなどシーズナルパターンを用いたトレード戦略の紹介。電子書籍（PDF版）にて年1回、刊行。



ダウンロード販売 PDF
日本語 2020年1月発売
本体 22,000円 税込
24,200円
予約受付中!

【予約受付中!】2020年1月刊行予定です。
※販売期間終了 2020年3月31日まで

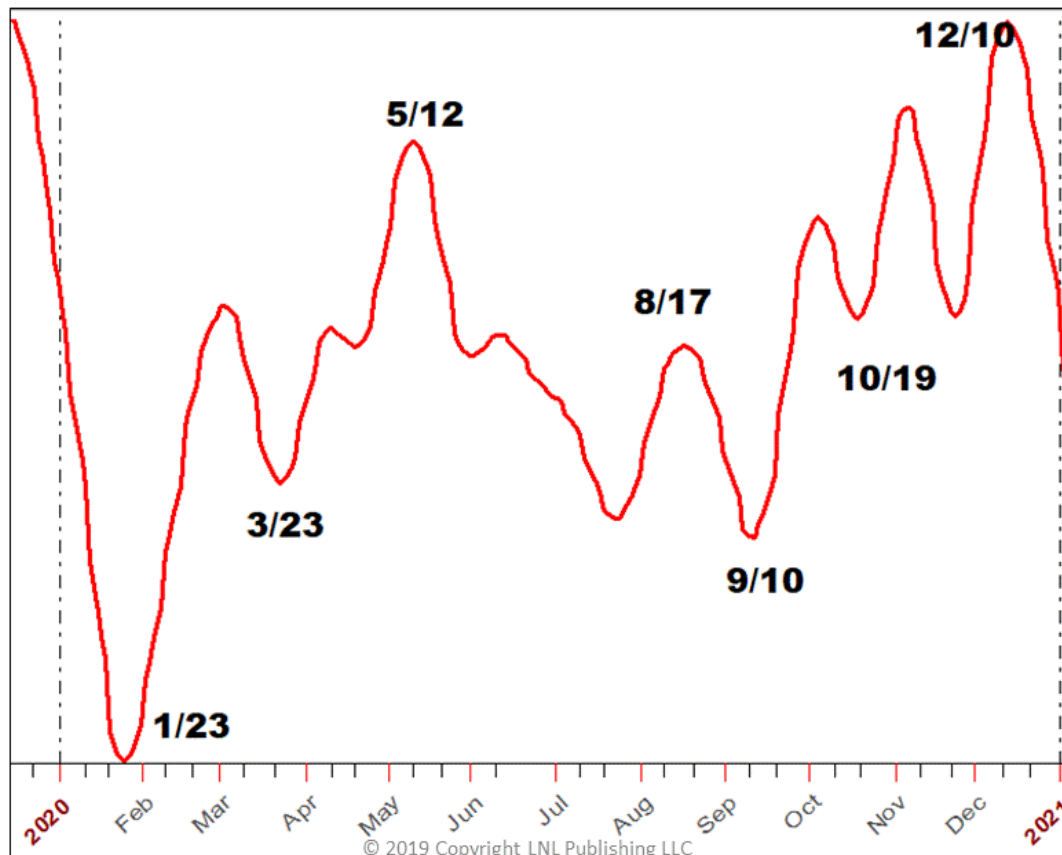
・開封パスワードは、トレーダーズショップにご登録の「メールアドレス」です。

通常価格 28,000円+税 → 早期割引 22,000円+税 ~12月25日まで

<https://www.tradersshop.com/bin/showprod?a=15686&c=2011384500008>

2020年のドルインデックスのフォーキャスト

What You Can Know - Dollar Index 2020 Forecast



フォーキャストはタイミングであって、スイングやトレンドの大きさや強さではありません。フォーキャストを示すラインが上下に大きくスイングしても必ずしも、そのような動きをするという意味ではありません。フォーキャストは、あくまでタイミング（転換点）を示していることを忘れずに！

現在の市場の動きは、ファンダメンタルズ無視となっています。こういった動きはまだまだ続くのでしょうか？

通常相場は何か下がれば、ほかの何か上昇します。しかし、近年、相関・逆相関のポートフォリオが機能しなくなっています。こうした相関性の崩壊は通常、景気サイクルの最終局面に起きます。景気サイクルの最終局面では、各資産が特有の事象に大きな影響を受けやすくなり、また景気悪化への懸念の高まりに影響を受けにくくなります。つまり、市場の変動要素が多様化し、各資産間の連鎖が崩れるのです。

中央銀行が市場のメインプレイヤーとなっているリーマンショック以降の相場は、ファンダメンタルズ無視の相場といえるかもしれませんが。現在のそうした動きは、中央銀行バブルが崩壊するまで続くでしょう。もっと簡単に言えば、金利が上がる（インフレになる）までは、政治家や中央銀行の作った自作自演の相場が続くということです。

連銀のポートフォリオは1月14日までに 4066兆ドルの史上最高を上回る

Exhibit 1: Is the Reversal in the Fed's Balance Sheet the Primary Driver of Rally in Risk Assets?



ステルスQE4（量的緩和第4弾）と呼ばれる量的緩和策によって、米国の景気は延命しそうだ。多くの人は経済（景気）が悪くなったら、株が下がると思っている。しかし、それは逆である。株が下がるから景気が悪くなるのである。資産価格の下落が、景気や産業に影響を与えていくのだ。そして、今の経済は「株がすべて」である。これを一番よくわかっているのは中央銀行だろう。2019年相場も中央銀行が相場の主役だった。

FARBAST Index (US Condition of All Federal Reserve Banks Total Assets) y/y chang
Source: Bloomberg, Morgan Stanley Research

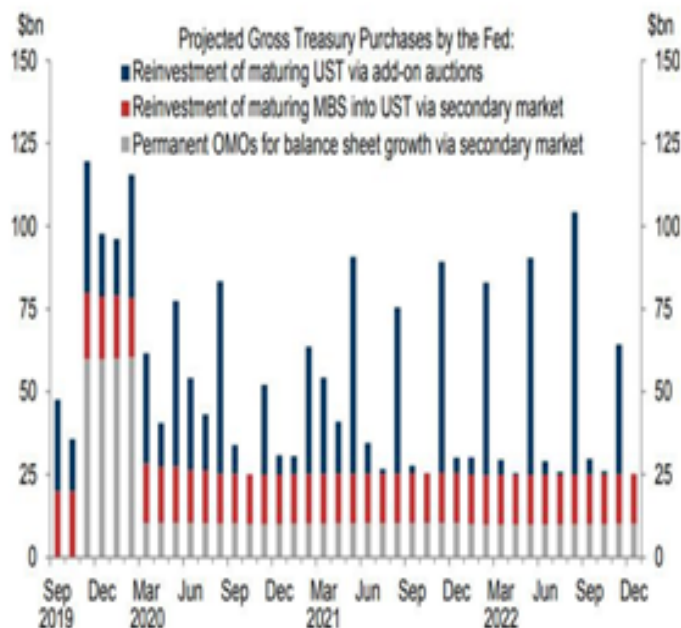
Copyright© 2019 Bloomberg Finance L.P.

15-Dec-2019 08:22:05

出所：ゼロヘッジ

隠れQEでバブルが延命 FRBは月額600億ドルの短期債の購入を開始する

Exhibit 1: We expect the Fed to rebuild a reserve buffer quickly over four months, followed by a slower trend pace of purchases



Source: Federal Reserve Board, Goldman Sachs Global Investment Research

出所：ゼロヘッジ

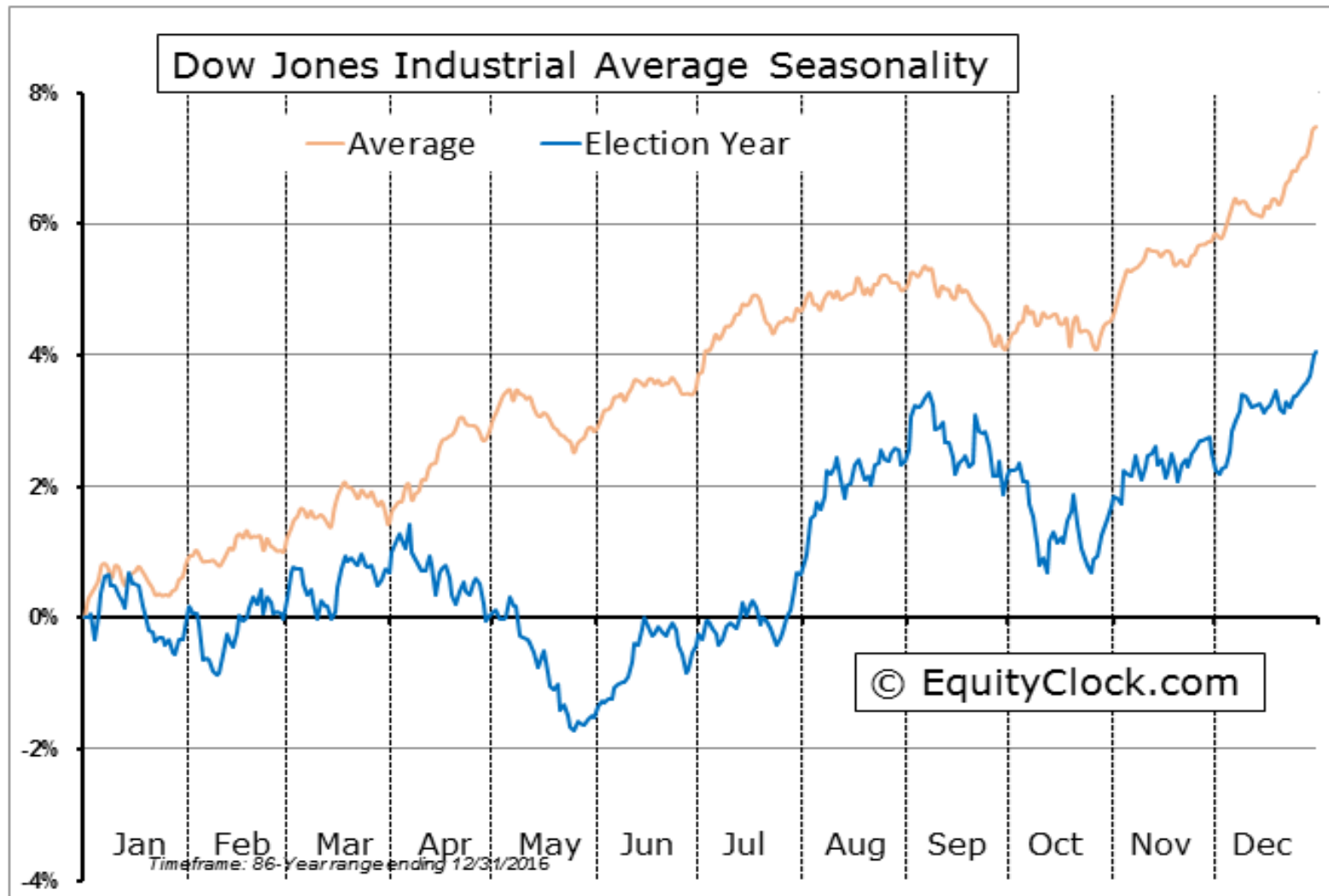
(1) 9月中旬のレポ市場危機以降、NY連銀が実施している臨時の資金供給オペを来年1月まで継続する。(いわゆるPOMO [恒久公開市場操作])

(2) FRB (連邦準備制度理事会) は10月中旬以降に月600億ドルの短期国債の購入を開始し、これを少なくとも2020年の第2四半期まで継続する。

米国は2019年10月15日から米国債の購入を再開したのである。QE3 (量的緩和第3弾) が終わってから5年で、米国は量的緩和に戻る事となった。連銀がQEをやめてQT (量的引き締め) を5年続けた結果、9月中旬にレポ市場で金融危機が起きたことから、OMO (公開市場操作) をPOMOに変えて、金融危機を防ごうというのが今回の量的緩和再開の背景だ。

大統領選挙年のNYダウのシーズナリチャート

Dow Jones Industrial Average Election Year Seasonal Chart



Dow Jones Industrial Average Election Year Seasonal Chart

出所：エクイテックロック

1月は相場急落が多い月

「1月」はショック相場が発生しやすい月？

- 2014年**1**月 アルゼンチン・ショック
- 2015年**1**月 ギリシャ・ショック
- 2016年**1**月 チャイナ・ショック
- 2017年**1**月 トランプ^o・ラリー リwind相場
- 2018年**1**月 金利急騰ショック
- 2019年**1**月 フラッシュ・クラッシュ
- 2020年**1**月 ○○・クラッシュ？
△△・ショック？

来年の株は金利（インフレ）がカギを握る



出所：筆者作成

石原順ブログ『日々の泡』

<https://ishiharajun.wpcomstaging.com/>

石原順の日々の泡

FX・株式・債券・先物市場分析

おすすめ

石原順（西山孝四郎）の出演番組・メルマガ・DVD・書籍

石原順のメルマガ『マーケットの極意』

